

# 大將軍大野東人

おおののあずまひと

平成17（2005）年、太宰府市は宮城県多賀城市との間で友好都市盟約宣言を結びました。この背景には、古代の大宰府と多賀城の類似した性格があり、両者の史跡地としての歩みにもまた似通った点が存するということがあると思います。

ところで、この大宰府と多賀城の両方に深く関わったと推定できる人物がいます。それが大野朝臣東人（？～742）です。「続日本紀」には、天平12（740）年9月、時の大宰少貳藤原広嗣が時政を批判し、朝廷に重用されていた僧正玄昉・下道真備を排除することを目的として、この九州を舞台に反乱を起こしたことが記されています。朝廷は、これに対して大野東人を大將軍、紀飯麻呂を副將軍に任じ、東海・東山・山陰・山陽・南海の五道の軍1万7000人を動員して征討を命じました。結局、同年11月5日の東人の奏言に、同月1日に肥前国松浦郡において広嗣とその弟綱手を斬刑に処したことがみえ、ここに広嗣の反乱は終結したのです。

この東人は、東北地方の経営・開拓

## 太宰府人物志

資料室だより⑬

に携わった人物でもありました。すでに神亀2（725）年には前年の征夷の功績によって従四位下勳四等を授けられていきますし、天平9（737）年には陸奥按察使として、陸奥より出羽柵までの直通路開設を建言するなどしています。さらに現在、多賀城内にある多賀城碑には、「この城（多賀城）は神亀元年、歳は甲子に次る、按察使兼鎮守將軍從四位上勳四等大野朝臣東人の置くところなり」とみえて、多賀城は神亀元（724）年、東人によって築造されたということが記されています。ただ、このことは現存する文献史料にはまったく記載されていません。また、この東人による多賀城築造のことは、日本史に関する辞典類の東人の項目をみてもほとんどふれられていません。それは多賀城碑が、明治以来長い間、偽作されたものと考えられてきたからです。しかし近年、多賀城碑偽作説は説得性に乏しいとして、再評価が進められています。また多賀城においても日々、発掘調査が行われており、近い将来、東人による多賀城造営を証する発見があることを期待したいと思います。